

4-1 機器活用マニュアル作成の基本事項

(1) 介護ロボット等活用の基本的な考え方

身体的・時間的に高負荷となっている業務を改善するために介護ロボット等を活用する場合は、それらを効果的に組み込んだ介助手順を検討・作成して、関係する職員全員が実践できることが重要です。

介助者が行う様々な介助の中で、負荷が高いと考えられる業務の一部に介護ロボット等を活用することで、業務全体の最適化・効率化を図ることになります。

実際には、介助者の負担軽減や業務の効率化などを踏まえた機器活用マニュアル（以下、活用マニュアル）の作成や、利用者の自立支援を踏まえたケアプランの作成が必要となります。



(2) 活用マニュアル作成時の留意点

メーカーの取扱説明書は、機器の操作方法や適用と禁忌が中心の内容となっていますので、実際に現場で機器を使う場合は、「機器をどこで保管するのか」、「どのタイミングで使い始めるか（持ってくるか）」、「どのケースで使うのか（使わないのか）」、「利用者の動線をどう確保するのか」、「職員の教育をどうするか」等をあらかじめ使用者側で整理しておく必要があります。

そのため、活用マニュアルの作成にあたっては、介助者の介助手順や介助動作にとどまらず、そうした活用環境の視点を盛り込むことが重要となります。

また、特に留意すべき点として、人（介助者）の介助手順と機器を活用した介助手順の双方を融合させ、利用者の状態と現場環境に即した最適化されたマニュアル作成を心がける必要があります。

ここでは、見守り支援機器の活用マニュアルの作成方法について解説します。

4-2 機器活用マニュアル作成の基礎

(1) 導入目的の設定

機器の導入計画や運用などの PDCA サイクルは、上級講習で学ぶこととなりますが、中級においても機器を施設へ導入する段階のプロセス等を理解しておく必要があります。

機器の導入を検討するにあたっては、はじめに導入する目的を明確にすることが重要となります。

まず、勤務している介護施設における介護業務において、負担が生じている場面を職員全員で確認し、改善すべき課題として抽出します。

次に、改善すべき課題のうち、機器の導入によって改善が期待できるものを導入目的として設定します。そのためには、介護ロボット等の導入メリットやデメリットを理解しておく必要があります。

導入目的を明確にする方法として、アクションチェックリストを活用した話し合いや介助の時間や姿勢を観察・分析する方法があります。

ここでは、見守り支援機器の導入を前提としたアクションチェックリストを活用し、導入目的を明確にします。

※アクションチェックリストとは、職場環境改善ヒント集とも呼ばれ、職場環境の改善に役立った良好事例をリスト化したものです。職場環境を幅広い視点でとらえるために、自分の職場を振り返りながら記入します。

(2) 見守り支援機器を活用する利用者の選定

導入した見守り支援機器の効果を最適化するためには、機器活用の必要性が認められる利用者の選定を行う必要があります。また、選定にあたっては、なぜ必要なのかといった理由も明確にしましょう。

下記の想定事例を参考に、皆さんの施設で、見守り支援機器の活用が必要と考えられる利用者について検討してみてください。

- 利用者 A さん（見守り支援機器が必要ないと考えられる例）
ベッドからの起き上がりや歩行が安定しており、転倒などのリスクは低い方です。認知症はありますが、排せつ動作も自立しており、職員の見守りが必要ない方です。
- 利用者 B さん（見守り支援機器が必要と考えられる例）
寝たきりで自力での体動はほとんどありませんが、ターミナル期に入っており、いつ呼吸停止や心停止になってもおかしくない方です。
- 利用者 C さん（見守り支援機器が必要と考えられる例）
ベッドから自力で起き上がることはできますが、立ち上がりや歩行が不安定で、転倒などのリスクが高い方です。認知症があり、職員との意思疎通もできなくなっています。

★あなたが働く施設で見守り支援機器の導入が必要だと考えられる利用者とその理由を挙げましょう

(3) 環境整備

見守り支援機器を導入するにあたり、利用者の選定や導入目的の設定後は、機器を運用するための環境整備が必要です。

ハード面としては、通信環境の整備が挙げられます。見守り支援機器は、Wi-Fi 接続を前提とする機種が多く、事前に整備が必要となる場合があります。既存の通信環境がある場合でも、導入しようとする機器が動作するかどうかの確認が必要です。ソフト面としては、実際に見守り支援機器を活用する職員を中心に、導入研修の場を設けるとともに、機器の導入目的や運用上の留意点などの説明も必要です。

また、機器を活用するにあたり、利用者およびそのご家族への説明を行い、同意を得ておくことが望ましいと言えます。

(4) 活用マニュアルを作ってみよう！

実際の業務をマニュアル化する大きなメリットとして、他の職員との情報共有（水平展開）が挙げられます。情報共有するためには、誰が見てもわかりやすいように書面にまとめることが大切です。下記の表2は必要な事項をまとめたものです。なお、図4は活用マニュアルの様式・記入例です。アクションチェックリストを活用し、あなたの施設での活用方法を考え、決定した内容を様式に記入して、自身の施設で活用できるマニュアルを作成してみましょう。

表2. 活用マニュアルに記載が必要な事項

- 導入目的・活用機器（製品名）
- 利用者氏名
- 使用時間
- 設置場所（居室やベッド、詰所のどこに設置するのかなど）
- 安全上で注意すべき事項
- 使用手順、発報時の対応手順
- その他、異常発生時の処置 など

<導入目的>

--

●●（製品名）活用マニュアル

メーカー担当者名：
メーカーTEL：

作成日：令和○年○月○日
改訂日：令和△年△月△日
作成者：介護 太郎

(1) 利用者

氏名：●● ●●	対象作業：見守り
本人の状況 <ul style="list-style-type: none">・ 下肢筋力低下により転倒リスクが高いが、理解できていない・ 夜間は眠剤を服用しているため、歩行は困難、ふらつきあり・ 一つひとつゆっくり指示すれば、自力動作は可能	
注意事項 <ul style="list-style-type: none">・ 機器の使用についての理解がないので、訪室の仕方に注意が必要	
設置場所 <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 居室／エアコンの下（感知器）<input checked="" type="checkbox"/> 詰所／パソコン（モニター）<input checked="" type="checkbox"/> タブレット端末（モニター）<input type="checkbox"/> その他	
使用時間 19：00（就寝時）～7：00（起床時）	
備考	

(2) 使用方法

使用手順
発報時の対応手順
使用上の留意点
情報共有と注意喚起
緊急時の連絡先や対応方法
その他特記事項 <ul style="list-style-type: none">・ 使用開始時に必ず動作確認をしてください。

図 4. 活用マニュアル様式例

アクションチェックリスト（導入目的と使用方法の設定ための）（案）

<チェックの手順>

1. 5項目のチェックポイントには、介護ロボット等を活用して職場環境・作業環境を改善する上でのヒントや好事例が盛り込まれています。
2. 各チェック項目についてそこで述べられている対策について次のように記入します。
 - (ア) その対策が不要で、今のままでよい（その対策が講じられているか、考える必要がない）場合は「活用しない」の「」部分にレ印をつけてください。そして、すでに職場で対策が行われている場合には、その内容をメモ欄に記入してください。
 - (イ) その対策が必要（改善がこれから行われることが必要）な場合には、「活用する」のにレ印をつけてください（すでに対策がとられていても、さらに対策が必要と考えられるならば、この「活用する」にレ印をつけてください）。
 - (ウ) 次に、「活用する」に印のついた一つ一つの項目についても、その対策を優先して取り上げたほうがよいものに、「優先」のにレ印をつけてください。
3. このチェック結果は、介護ロボット等を導入する課題の洗い出しや優先順位づけに使うことを目標にしています。
4. アクションチェックリストは、このリストが完成形ではなく、皆さんの施設でのチェックリストづくりを進めてください。

<アクションチェックリスト（例）1：利用者に関して>

A. 利用者の尊厳を守りつつ、効率よく見守りを行うために

<p><利用者の尊厳を守る> (1) 利用者が「見張られている」と感じないように見守りを行えるようにする。 (画像を見て訪室の必要性を判断できる、複数の職員が訪室しないよう連携する など)</p>	<p>このような対策を <input type="checkbox"/>活用しない <input type="checkbox"/>活用する→<input type="checkbox"/>優先 メモ _____ _____</p>
<p><発報時に適切に対応する> (2) 発報時、状況に応じてどう行動すればいいか決められている。</p>	<p>このような対策を <input type="checkbox"/>活用しない <input type="checkbox"/>活用する→<input type="checkbox"/>優先 メモ _____ _____</p>
<p>< unnecessary 巡視を避け、安眠を確保する> (3) 入眠状況、夜間の排せつパターンなどのデータをみて、 unnecessary 巡視をせず、安眠を保つ。</p>	<p>このような対策を <input type="checkbox"/>活用しない <input type="checkbox"/>活用する→<input type="checkbox"/>優先 メモ _____ _____</p>

<アクションチェックリスト（例）2：使用方法に関して>

B. スムーズに操作できるように

<p><モニター画面の操作> (1) 記録画面と映像を表示する画面をスムーズに切り替えられるようにする。</p>	<p>このような対策を <input type="checkbox"/>活用しない <input type="checkbox"/>活用する→<input type="checkbox"/>優先 メモ _____ _____</p>
---	--

C. ムダな動きをなくして効率よく働くために

<p><使用時の手順> (1) 使用前に必ず動作確認を行い、誤報や電源の入れ忘れを防止する。</p>	<p>このような対策を <input type="checkbox"/>活用しない <input type="checkbox"/>活用する→<input type="checkbox"/>優先 メモ _____ _____</p>
---	--

D. ミスを減らすために

<p><情報共有と注意喚起> (1) 生じやすいミスや生じたミスについては、防止の手順・注意事項を掲示などで注意喚起する。</p>	<p>このような対策を <input type="checkbox"/>活用しない <input type="checkbox"/>活用する→<input type="checkbox"/>優先 メモ _____ _____</p>
--	--

E. 機器が正常に作動しなかったら

<p><機器の異常時の連絡先や対応方法> (1) 誤動作時、作動しない時の連絡先や対応方法をわかりやすい場所に設置する。</p>	<p>このような対策を <input type="checkbox"/>活用しない <input type="checkbox"/>活用する→<input type="checkbox"/>優先 メモ _____ _____</p>
---	--

4-3 機器活用マニュアルを作成してみよう

ここまでの学習内容をもとに、各自で活用マニュアルを作成してみましょう。今回は、見守り支援機器を活用することを前提に、まず各人がアクションチェックリストを使って各自の施設を想定し、

- ① なぜその機器を選定したのか（導入目的）
 - ② 利用者の尊厳を守る機器の使い方について（利用者に関して）
 - ③ 定期巡回を続けるか、異常時のみの訪室にするか（使用方法）
- などを考えて作成してください。